慈眼（じげん）

第19号

発行所
藤津郡塩田町大字五町田甲1307 学成院内
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771
日蓮宗佐賀教化センター
発行責任者
小寺大誠

宗祖日蓮大聖人立教開宗七五〇年 慶讃結願大法要護法団参報告

去る四月二十一日から二十三日までの二泊三日の日程で、佐賀県宗務所主催の立教開宗七五〇年慶讃結願大法要護法団参が実施され、小寺大誠宗務所長を団長として県内より四〇名の参加を得、身延山久遠寺に於ける慶讃結願大法要に参拝する事が出来、大変意義ある団参となりました。

一日目は、早朝に佐賀空港を立ち東京へ向い、大聖人のご入滅の霊場、池上本門寺に参拝。昼食後大堂に於いて御開帳を受け、その後、一日目の宿である下部温泉のホテル守田へ向いました。

二日目は、結願大法要を祝うかの様に素晴らしい晴天になりました。朝食後にホテルを出発し、祖山久遠寺に向いました。

久遠寺の山門に着くと団扇太鼓と共に「南無妙法蓮華経」のお題目の声が身延の山に響き渡っていました。

まず、御草庵跡と大聖人の御廟所前拝殿で小寺所長導師のもと団員一同で声高らかにお題目をお唱え致しました。その後、大本堂まで登り早めの昼食を頂き、法要に備えました。

世界各国、日本各地から三千五百人以上の僧侶・檀信徒が集まり、大本堂・祖師堂・大本堂前のテントは人に埋め尽くされ身動きも出来ない程でした。十二時半に大本堂に入り、幸いにも最前列に座ることが出来、徐々に緊張感が高まる中、大法要の開式を待ちました。

大本堂に響き渡る大太鼓に合わせお題目を唱える中、大導師の藤井日光管長猊下をはじめ式衆が入堂し、開会宣言にて結願大法要が始まり、読経のあと檀信徒の代表による献香・献華・献灯が行われました。藤井管長猊下は慶讃文で慶讃事業の円成を奉告され、結願という千載一遇の法悦に出会えた事を悦ぶと共に、混迷を極める現代社会で、立正安国・成仏国土顕現達成に精進する事を誓願されました。誓いの言葉では、日蓮宗信徒青年会の池上さんが、法華経のみ教えを異体同心して全世界に伝える事を誓われました。藤井管長猊下の御経頂戴に、参列者は低頭し手を合わせました。その後、祝辞や謝辞があり、閉会宣言をし感動の中に終了しました。

法要終了後久遠寺をあとにし富士五湖の一つ本栖湖を通り、富士駅に向う車中で、団長である小寺所長は団参参加の御礼と「祖山で行われた結願大法要に参列出来た事は感慨無量の悦びであり、祖願達成の為、尚一層のお題目信仰にご精進頂きますよう」と挨拶されました。

富士駅に着き、さくらで佐賀へと帰路に着きました。以上二泊三日の大変な日程でしたが、法要に参列した団員一同は大法要に感激し、お題目を広め伝える「誓願」に邁進することを誓いあいました。

きゃ～つぐろ（かいつぶり）

アメリカとイラクの戦争は、圧倒的軍事力の差でアメリカの勝利におわりました。無政府状態になったイラクでは、博物館から「目には目を歯には歯を」の言葉で知られるハムラビ法典が略奪に遭いました。アメリカもイラクもこの、やられたらやり返せ主義で戦争をして悲惨な結果をもたらしたのです。決してこの考え方で平和は訪れません。

今こそ法華経で説かれる常不軽菩薩の「但行礼拝」の精神が必要不可欠であります。危害が与えられようがひたすらに相手を拝む。その敬虔な姿で相手を導いていく。絶対的な非暴力が仏様の本意であります。

今日本は、有事法制整備に力を入れてどうも仏の本意に背く方向へ進んでいるようです。五十八年前の教訓は、今どこへ。

【特集】《日蓮大聖人のご入滅後の流れ》

前号まで日蓮大聖人のご生涯をたどってまいりました。法華経の弘通に文字通り命を賭け、又積極的に弟子信徒を教導されました。ご自身「我が門家」「予が一門」「日蓮が弟子檀那」等と称されその結束を図ってこられました。今回からは大聖人滅後の一門の流れをたどります。

《ご入滅》

「人身は受けがたし、人身は持ちがたし、艸の上の露。百二十まで持ちて名を腐して死せんよりは、生きて一日なりとも名をあげん事こそ大切なれ。」

～崇峻天皇御書～

日蓮大聖人は弘安五（一二八二）年十月十三日、六十一年間のご生涯を閉じられました。十四日夜半より葬儀がしめやかに執り行われ、十五日零時過ぎ遺骸は荼毘に付されたといいます。

その後初七日忌が過ぎた二十一日、参集した信者たちは大聖人のご遺骨が入った宝瓶を携えて池上を出発、遺言に従って身延山へと向いました。一行は二十五日に到着、庵室近くにご遺骨は埋葬されました。こうして身延山は聖地となり、後に日蓮宗総本山「久遠寺」となったのでした。

《身延山祖廟》

《守塔輪番制度》

蓮聖人は、その死に際して本弟子・六老僧（日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持）を定め後事を託し、また六老僧達に交代で自分の墓を守るように遺言されました。これに従い滅後百日の節目となる弘安六年の正月に組まれたのが守塔輪番の制、所謂「輪番制度」であります。身延山にご廟所が設けられ墓石が建立されました。守塔とは、この廟塔を守り墓石を清掃し、香を焚き、花を献じ、法華経お題目を唱えて大聖人の菩提を弔い、護持していく事を云います。その役を本弟子六老僧を始めとして主な弟子達十八名が交代して勤める事を輪番と言います。これは各自が布教先で法華経弘通に励みつつ、毎年所定の一ヶ月間、身延山で師大聖人の墓所に仕えることで門下の結束を固めるための具体的な方法でした。

しかし各地で布教活動をしながら、毎年一ヶ月とはいえ身延山常駐は大変な事で、三回忌の頃にはもっぱら地元の日興上人が常住し祖廟の給仕にあたるようになりました。こうして守塔輪番の制の維持は次第に難しくなり、早くも三回忌前には挫折せざるをえなくなってせまいました。

しかし事を憂えた日向上人が身延専住の守塔者となり制度を再興し、以後七百余年現在まで身延山では脈々と法灯が継承されています。今日も「守塔輪番制」にならい、全国の寺院住職が檀信徒を率いて参拝し、「祖廟輪番奉仕の制」が布かれ受け継がれています。

技術本位　佐賀の老舗　信用本位
辻の堂の仏だんや
(株)本庄仏具総本店
佐賀市堀川町（辻の堂）● TEL0952・23-2955(代)

花と葬儀　木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会
OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社
草苑 (SOU-EN)
北佐賀草苑　佐賀市兵庫町藤ノ木1115　(0952) 30-4040　FAX・30-4043
南佐賀草苑本庄　佐賀市本庄町大字本庄951　(0952) 25-1255　FAX・25-1088

釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す。我等此の五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう。

《如来滅後五五百歳始観心本尊抄》

このお言葉は日蓮大聖人五十二歳の文永十年（一二七三）四月、佐渡配流中、一の谷で著述された観心本尊抄の一節で、大聖人が建長五年（一二五三）の四月より三十年間唱えられ、弘められた南無妙法蓮華経の御題目とは何であるかを説かれたものです。

「お釈迦様が仏となるまでの修行のすべてと、お悟りを開かれて以後（仏となられた後）のお釈迦様の功徳のすべてが妙法蓮華経の五字のなかに説き顕わされており、私達でも妙法蓮華経の五字を堅く信じて、その気持ちを強く持ち続け、一心にお唱えするならば、自然とお釈迦様が仏となられるために御修行された功徳と、お悟りの功徳その全てを譲り与えられるのであり、教主釈尊の広大無辺なる慈悲救済をいただくことにほかならないのである」と述べられております。

お釈迦様は、遥か遠い昔に長い修行によって悟られた真理を法華経に説き顕わされました。

すなわち、『如来寿量品』において末法（正しい教えや行動がすたれて世の中に混乱と退廃が起こる時代）の人々を救うためには、この妙法蓮華経の教えが必要であるとして「是の好き良薬を今留め此に在く」といわれ、『如来神力品』で上行・無辺行・浄行・安立行の本化の四菩薩たちを呼び出され、末法の世の人々を救済するために妙法蓮華経（法華経）の教えを世に弘めることを、命じられたのでした。

つまり、妙法蓮華経の題目とは単に法華経というお経の名前であるだけでなく、仏の悟りのすべてを表す名であり、仏の悟りの本体である智慧と仏の修行と悟りと、仏が人々を救済する働きとを含んでいるのであります。我々はこのお釈迦様の尊い御教えを我が身となし、大聖人と共にお題目の修行を実践しなければならないのです。

少年少女行学道場のご案内

日蓮宗佐賀県青年会では毎年、少年少女を対象に行学道場を夏休みに開催しております。行学道場とは、仏教的な教えや作法のほか、団体生活を通して助け合いや思いやりの心を育てていく場所です。二泊三日と限られた時間ですが充実したものになりますよう一生懸命にお手伝いをさせて頂きたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。

日時　平成十五年七月二十二日（火）〜二十四日（木）
会場　白木パノラマ孔園
杵島郡江北町大字山口花祭三八三〇ー三
電話　〇九五二ー八六ー五九〇五
対象　小学三年生〜中学三年生
参加費　一名　一万円

お申し込みお問い合わせはお手数ですが、賀昌院　電話〇九五二ー二四ー六三三二までご連絡ください。

日蓮宗佐賀県教化センターでは読者の皆様よりご質問等を募集致しております。

葉書に、ご質問の内容・住所・氏名・菩提寺等をお書きの上、教化センターまでお送り下さい。お答え出来る限りお答え致します。

・寺院用具一式　・前卓　・錺金物　・宮殿
・登高座　・修復　・須弥壇　・経机
・仏壇　・人天蓋　・美術彫刻品　・仏具
・幢幡　・宗教絵画　・神殿用具　・瓔珞
・塗物　・其の他　・仏像彫刻　・箔者

手を合わせるこころを大切に・・・・
山本仏具
佐賀市呉服元町10-12
〒840-0824　☎(0952) 23-4308

平成15年度・創業81年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ
古賀仏壇店
3代目　代表取締役社長　古賀宏昭
本社〒840-0813　佐賀市唐人町1丁目2-25
TEL(0952)23-5521
FAX(0952)23-5564

寺院紹介（十七）

《妙覚山福正寺》（みょうかくさんふくしょうじ）

杵島郡江北町大字惣領分一九九三

野口雅孝上人（のぐちがこう）

肥前山口駅より祐徳バス佐賀方面行きに乗り、佐留志バス停にて下車して北の山手へ徒歩五分、南に市街と田園を臨む見晴らしの良い高台にあります。

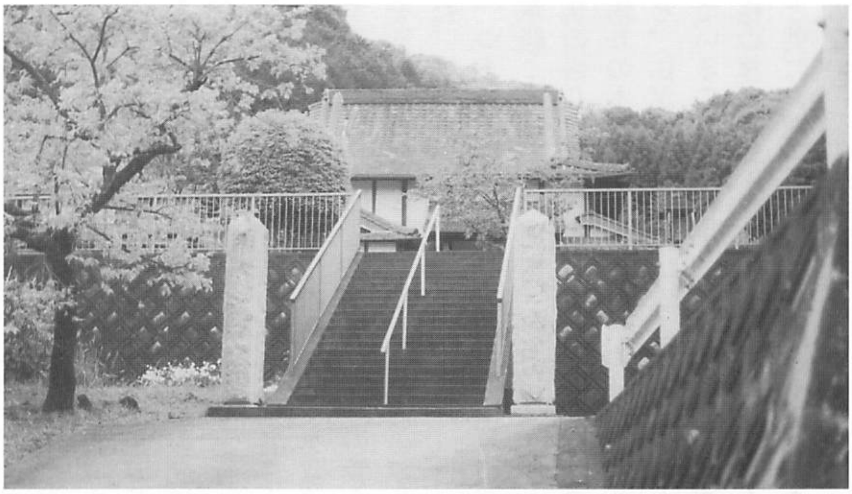
【歴史】

福正寺は延徳二（一四九〇）年の創立第一世の涌竜院日苔上人以来連綿と五百余年の歴史を築いてきました。

特に第二十七世の智琢院日輝上人は八丁に妙善寺を創立・開山されました。

現在の本堂、庫裡は昭和五十六年に第三十三世の寿学院日完上人の代に宗祖日蓮大聖人第七百遠忌記念事業として新築され、また前総代谷口勝二氏の発願により参道が整備されました。四十件余りの檀家数でこの大事業が成し遂げられ、現在も力を合わせて境内整備に努められています。

また現住職は自坊での法務の傍ら、福岡市東公園にある日蓮聖人銅像護持教会に勤務されております。



〈福正寺全景〉

【アワビの宝塔】

境内地に「アワビの宝塔」があります。この宝塔は第三十二世龍学院日透上人が勧請された宝塔で、庭仕事をされていた住職の奥様が土中よりお題目の文字が自然の模様として浮かび上がったアワビの殻を発見しました。

この「アワビ」のいわれは諸説ありますが、一つには、日蓮大聖人が佐渡流罪の折り高波に襲われ船上より竿で波にお題目を書いて難を逃れましたが、この経力が「アワビ」に映ったという説があります。

また一説には千葉氏が九州下向の際海難に遭いましたが、一心にお題目を唱えて難を逃れ無事に到着しました。船を調べると「アワビ」が穴のあいた部分を塞ぎ守ってくれていました。一心に唱えたお題目が「アワビ」に映ったといわれています。

このような説からこのお題目が映った「アワビ」は「難を逃れる」と言うご利益があると伝えられ、境内より出土した「アワビ」を勧請されたようです。

福正寺御室前

仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を
梅谷佛具店
TEL 092-271-0456
本店 〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-9（地下鉄中洲川端駅下車）7番出入口・博多座裏
支店 〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4
フリーダイヤル 0120-39-0456
TEL 092-806-7499

通産大臣認可　7産第2930号
株式会社 冠婚葬祭こころの会
KOKORO
三日月町大字久米2084-1　☎72-3177・FAX72-3633
こころの会指定店
総合葬祭　有限会社 黄城
小城町270　☎73-3938・FAX72-3633